

の財政不況の煽りをくったために本計画のスタートには至らず、「次世代放射光科学のための基礎研究経費」が予算化されたに留まった。10年度も引き続いて計画実現のための努力がなされたが、財政構造改革のもとに国立学校特別会計の更なる財政難にぶつかり残念な結果となったわけである。現在、世の中は景気刺激策として大型の補正予算が組まれて、学術研究に対しても、いろんな意味で予算措置がされようとしている。しかしながら、この措置には年次進行する長期的な計画に対してはあまり理解が得られないのが現実である。そこで、東大当局の指導もあり、本来の高輝度光源計画を涙を飲んで縮小した計画に修正し、それを実現すべく11年度要求には背水の陣で望んでいるところである。藤森会長も前号で書かれているように、この計画は、縮小されたとはいえ、世界の例のない特徴を持つファシリティとして物性研究所SOR施設の総力をあげて立案されたもので、11年度は是非とも前進させなければならないと考えているところである。

私の所長としての任期も残すところ5ヶ月になってしまった。前所長よりこの計画の推進を引き



柏キャンパス物性研究所研究棟1階
スラブコンクリート打設完了。

継ぎ、細部にわたる計画の検討や学内外の調整、更には関係機関への働きかけなど、私なりに努力してきたつもりである。しかしながら、未だに先が見えてこない状況にあり実現を悲願として待ち望みかつ支援して頂いている多くの研究者の皆様大変申し訳なく思っている次第である。物性研究所はこの計画の推進部局としての責務を負っているわけで、所長としても残された期間できる限りの努力を継続していくつもりである。関係各位の更なる応援をお願いする次第である。



柏キャンパス航空写真。右上は常磐自動車道柏インターチェンジ。